

登録コード:MH264400 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	総合講義【20M・21M】 Clinical Laboratory Comprehensive Lecture			
担当教員	山内 一由 矢崎 正英・新井 慎平・平 千明・安尾 将法			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻/4年 前期(集中) 集中・不定期			
単位数、講義室	1 単位		遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		検査値の異常値がでる機序を理解する	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		臨床検査の基本的な技術を修得する	
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。		グループ実習を通じて協働する能力を身につける	
	多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。		検査異常値のでる機序を形態学的・機能学的に理解する	
授業で学べる「テーマ」	キャリア			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	臨地実習に臨むにあたり、これまでの検査技術科学専攻専門講義で得た知識を統合し、主要な疾患の概念および各領域の臨床検査（臨床生理学，臨床検査管理学，臨床検査解析学，遺伝子・染色体検査学，臨床微生物検査学，臨床免疫検査学，臨床化学検査学，臨床血液検査学，病理組織細胞検査学，臨床検査総論，医療安全管理学）の概要を理解し、その基本を習得する。 1年次から行ってきたすべての講義の集大成となります。 本授業は、担当教員の医療機関における医療職としての実務経験を活かし、講義を行う。			
授業計画	4月9日～5月2日までの間に以下の8回の集中講義の形態で講義、演習を行う。 1回 生理機能検査学（聴力検査・味覚検査・嗅覚検査）(安尾・矢崎・新井・平・重藤) 2回 生理機能検査学（安尾・矢崎・新井・平・重藤) 3回 臨床化学・血清学・定性検査学（山内・樋口・新井・重藤) 4回 臨床微生物検査学（松本) 5回 臨床血液検査学（新井) 6回 解剖・病理組織学（太田) 7回 病理組織細胞検査学（木村) 8回 遺伝子・染色体検査学（松田) 授業アンケート			
授業の進め方	本授業は、「臨地実習前の技能習得到達度試験」に関連する講義として位置付けられ、各領域の臨床検査（臨床生理学，臨床検査管理学，臨床検査解析学，遺伝子・染色体検査学，臨床微生物検査学，臨床免疫検査学，臨床化学検査学，臨床血液検査学，病理組織細胞検査学，臨床検査総論，医療安全管理学）の講義及び演習として実施する。			
テキスト，教材，参考書	臨床検査各領域の教科書、実習書などを参照する。			
成績評価の方法	筆記試験又は口頭試験、課題レポートに基づいて総括的に成績を評価する。 総括評価の配分は、筆記試験・口頭試験80%、課題レポート20%とし、60%以上の獲得を合格とする。			
成績評価の基準	【筆記試験・口頭試験の評価基準】 講義内容と同レベルの問題が解ければ「水準にある(可)」、応用問題が解ければ「やや上にある(良)」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある(優)」、講義内容からは難しい応用問題が解ければ「卓越している(秀)」ことを基準とする。 【課題レポートの評価基準】 課題の目的・方法・結果が正確に記述されていれば「水準にある」、目的・方法・結果のより詳細な記載があり、且つ考察が理論的に展開されていれば「やや上にある」、考察に論文の引用や自分の見解が提示されていればその程度に応じて「かなり上にある」～「卓越している」と評価する。ただし、ウェブサイト等からの転用、盗用が発覚した場合には当該レポートの評価は不可（0点）とする。 成績評価の判定基準は、90～100点が秀、80～89点が優、70～79点が良、60～69点が可とする。			

事前事後学習の内容	【事前学習について】 これまでに臨床検査学の各教科の授業で学んだ内容を整理し、総合的な復習を行ってから授業に臨むこと。 【事後学習について】 講義、教科書、配布資料に基づき復習を行う。また理解不足の内容については必ず自分で調べたり、担当教員に質問し解決しておく。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	これまで学んだ知識や技術を包括的に身に付ける重要な講義となるため、事前、事後学習により体系的な理解度を高めていく必要がある。 個別の質問等は随時受け付ける。 松本<tmatsumoto@shinshu-u.ac.jp> 石田<fumishi@shinshu-u.ac.jp> 太田<hohta@shinshu-u.ac.jp> 矢崎<mayazaki@shinshu-u.ac.jp> 松田<kmatsuda@shinshu-u.ac.jp> 山内<yamauchi@shinshu-u.ac.jp> 安尾<yasumasa@shinshu-u.ac.jp> 木村<kimura_f@shinshu-u.ac.jp> 樋口<sasa0922@shinshu-u.ac.jp> 平<tairacha@shinshu-u.ac.jp> 新井<arais@shinshu-u.ac.jp> 重藤<seikok@shinshu-u.ac.jp>